

はじめに

i 背景と目的

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会や、高齢化の進展、障害者数の増加等を見据え、より多くの視覚障害者等情報の取得に制約のある者が公共交通機関の旅客施設等を利用することが見込まれている。

こうした中、乗り入れする車両の扉位置が一定であること等の条件を満たす駅ホームについて、ホームドアの設置が進められてきたところであるが、近年、乗り入れする車両の扉位置が一定でなくとも設置が可能といった新型のホームドアについて技術開発が進められている。一方で、こうした新型ホームドアについては、これに対応する視覚障害者誘導用ブロック（以下ブロックという）の敷設など視覚障害者への案内の方法が必ずしも確立されていない。

このため、新型ホームドアに対応するブロックの敷設方法に関する調査を行い、ブロックの敷設方法等のあり方の検討を行う。視覚障害者等のニーズに対して適切な在り方を把握し、バリアフリー整備ガイドラインへ記載すべきものとなるかどうかも含めて、検討、取りまとめを行い、より高いレベルのバリアフリー化整備を目指すものである。

ii 事業スキームおよび新型ホームドアの定義

事業は下記のとおり実施した。

なお、本事業において新型ホームドアとは、平成 28 年度国土交通省にて開催された「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」において整理された「車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなタイプのホームドア」と定義することとする。

新型ホームドア等に対応するブロックの敷設方法に関する調査フロー

1) 事前調査等の実施

視覚障害当事者
へのヒアリング

有識者への
ヒアリング

デスク
リサーチ

2) 現地調査

現地調査

視覚障害当事者による現地調査

3) 適切な敷設方法の検討

論点整理と適切な敷設方法の検討

4) 実地検証の実施

適切な敷設方法の検証

5) 検討委員会等の実施

ブロックの敷設方法情報提供・案内のあり方に関する検討委員会

①ブロックの敷設方法検討調査方法

WG ブロックの敷設方法案の検討

②調査結果、実証を踏まえたブロックの敷設方法、情報提供・案内のあり方検討

③調査結果、実証を踏まえたブロックの敷設方法、情報提供・案内のあり方検討